

< S 4 > 化学翻訳応用講座

この講座は、この講座は、自分の英訳スキルの、更なる向上を目指す方を対象とする講座です。（講座 S 3）に引き続き、受講生の方々によるグループ・ディスカッション等を通じて、自分の英訳の「クセ」を知り、更なるスキル向上を図ります。

対象者：化学明細書英訳を、更にスキルアップしたい方。すなわち、早期に各種のトライアルにチャレンジしたい方に最適です。

講座の内容：グループ学習による演習・発表

●過去の多数回の社外セミナー講師を勤めた体験から、担当講師は、実務スキルを身に付けるためには、このような「グループ学習」が最適であることを実感しています。

<本講座のテキスト抜粋>

1. 「課題」の出題

(1. 1) 実際の化学分野の公開公報に即した内容の「課題」を、予め受講生の方々に提示します。

(1. 2) この課題においては、下記の4つの「部分」から、講師が選択した箇所(①~④の各部分において、最大で4箇所程度)の和文を、各自で予め翻訳して載せます。

①明細書の冒頭部分：「発明の名称」、「技術分野」、「背景技術」および「本発明」への移行部(講座 B 4 (前半)の箇所)

②明細書の間部分：「発明の詳細な説明」の要部(講座 B 4 (後半)の箇所)

③「実施例」(講座 B 4 (後半)の箇所)

④「クレーム」(講座 S 3の箇所)

(1. 3) この講座では、「ポイントとなる和文」を英訳するのであり、決して「長い」文章では、ありません。実際の公報の文脈中で、課題たる和文の意味を自分なりに解釈し、且つ実際に自分で英訳してみることに価値があるからです。

2. グループ活動

(2. 1) 各グループで討論して、そのグループにおける「ベストな解答」を準備します。

(2. 2) このグループ討論を通じて、相互の情報交換、相互の理解を促進させます。

(2. 3) ここで活発に意見交換することが、自己のスキルを磨くこととなります。

3. 相互発表

(3. 1) 各グループ毎に、それぞれの「解答」を発表します。

(3. 2) その後、担当講師からの解答例の提供、および講評を行います。

4. 事後の検討

(4. 1) 自分自身による英訳、グループ活動により得られた英訳、および講師の解答例の3者を、(自分なりに)オープン且つ平等な条件で比較することが重要です。

(4. 2) これら「3つの英訳例」の長所・短所を、各自で実感して下さい。

(4. 3) 元の和文における文脈および／又は解釈により、「満足な英訳」は異なります。